

平成27年度

施政方針

平成27年2月

飯山市

# 平成27年度 施政方針

平成27年3月定例市議会の開会に当たり、平成27年度に臨む、施政の基本方針を申し上げ、市民の皆様、並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

平成27年は、飯山市にとって市民の長年の望みでありました北陸新幹線飯山駅がいよいよ3月14日に開業するという記念すべき年であります。

昭和54年11月に市民による北陸新幹線建設受入促進市民協議会が組織され、それ以来36年に渡り、新幹線誘致・受入について運動を展開してまいりました。市民の思いを国に届けるため昭和63年8月から3回にわたって開催した大規模集会や、行政関係者、市民組織による中央要望など様々な取り組みが、先人の皆様方や多くの市民の皆様方の熱意によって行われ、そのことが国を動かし、本年の北陸新幹線飯山駅開業が実現できたものと、改めて実感しているところであります。

平成8年12月の長野・上越間フル規格着工決定を受けて、新幹線駅周辺整備事業や新幹線関連の都市施設等に本格的に着手し、計画的に準備してきた基金と国の補助金等を活用して事業を進めてまいりました。

また、新幹線開業後を見据えて開業に向けた市民意識の醸成やPR活動も積極的に行ってまいりました。昨年8月には新幹線駅舎に映像を投影した国

内最大級のプロジェクションマッピングを、1万2千人もの大勢の皆さんにご覧いただき、さらに、お越しいただいた皆さんからも、会場で撮影した映像などをインターネットなどにより広く情報発信していただいたところです。9月には広域連携による「第2回北信州ハーフマラソン」を開催し、前年度を上回る2千人のランナーが新幹線飯山駅前のゴールを目指して、秋の信越自然郷を楽しんでいただきました。11月には90年もの歴史を持つJR飯山駅の新幹線飯山駅への移設統合のイベントも大勢の市民が見守る中で行われました。その他にも多くの開業関連イベントを実施し新幹線飯山駅を大いにPRできたものと思います。

飯山市の環境は、新幹線飯山駅という全国に直結する玄関口ができたことにより劇的に変わります。

首都圏そして北陸圏、更には関西圏へも短時間でしかも大量の人を移動できる新幹線を活かすためには、この地域にある様々な資源(宝物)をもって、新しい切り口・捉え方により、新たな活用方法や新たな価値を生み出して行くことが大切となります。

新幹線開業が、まさに飯山市の新しい時代の幕開けであり、市民の皆様とともにこの時代を未来に向かって切り開いてまいりたいと思います。

ここで、市政を取り巻く国や県の状況等をご説明申し上げ、ご理解を賜りたいと存じます。

平成27年度の国の経済見通しは、「緊急経済対策」などにより、雇用や

所得環境が引き続き改善し、好循環がさらに進展するとともに、交易条件も改善する中で、堅調な民需に支えられた景気回復が見込まれ、物価についても、原油価格低下の影響はあるものの、日本銀行の「量的・質的金融緩和」の効果等もあり、消費者物価上昇率は1.4%程度となることなどから、デフレ脱却に向け着実に進展していくと見込み、平成27年度の国内総生産の実質成長率は1.5%程度、名目成長率は2.7%程度と見込まれております。

国の新年度予算案は、前年度当初と比べ0.5%増の9兆6千342億円となり、過去最大の予算規模となったところです。歳出では、社会保障の充実・公経済負担の増などにより社会保障関係費を約1兆円増額し、一方、歳入では景気回復の見込みや平成26年4月からの消費税率8%への引上げに伴う税収増などにより、新規国債発行額は前年度から4兆を超える大幅な減額とし、公債依存度は平成21年度当初予算以来の30%台に低下しております。しかしながら、平成27年度末の公債残高は約8兆7千億円、国民1人当たりでは約63.8万円と見込まれ、借金が増加している状況に変わりはないところです。

長野県にあっては、防災・減災対策を積極的に推進するほか、地方創生のフロントランナーとなるべく人口定着と確かな暮らしの実現に向けた取り組みを進めるとともに、信州の価値向上と発信など「長野県総合5か年計画」に基づく施策の着実な推進とあわせ、経済の好循環に向けて2月補正予算と一体的に編成を行い、前年度比約204億円、2.4%増の8,695億円の

当初予算編成となっております。

私も昨年9月市長2期目に就任以来、およそ半年がたちました。平成27年度の市政運営の基本的な考えについて申し述べます。

まず1点目は、「新幹線開業を活かした、新しい飯山づくり」であります。新幹線飯山駅開業により駅併設の広域観光の拠点であります観光交流センターや山岳高原アクティビティセンターの開設により広域観光「信越自然郷」エリアの観光交流がますます活発になるものと思います。信越自然郷エリアは隣接する市町村同士が共通した風土と文化を持つひとつの文化圏であるといえます。この地域の二次交通の充実を図り移動の利便性向上に向けた取組とともに、この大きな文化圏の持つ魅力によって新たな顧客を呼び込むための新しい魅力の創出を図り、地域資源の付加価値を高め観光交流人口の更なる増加に向けて邁進する所存であります。

2点目は、「若者が住み続けられる環境づくり」です。人口減少に歯止めをかけるためには若者がこの地に住み続けることが最も重要です。若者がこの地に住んで生活ができ、子どもを安心して育てられる環境づくりのため、子育てについては今までの「中学生までの医療費無料化」や「第3子以降保育料無料化」に加えて「1歳児からの保育」、「長時間・土曜日曜保育時間の延長」、「休日保育」を実施します。また、若者会議を開催し「飯山市で結婚・子育てできる若者定住モデル」の構築を目指すとともに国の「まち・ひと・しごと創生法」に基づく市の総合戦略を策定し人口減少の歯止め策を講じ働

く場の確保のため広域観光の振興、観光と農業連携や起業支援を含め産業振興をより一層図ってまいります。

一方、こうした施策の推進には市民サービスに直結する財源等を生み出すため行財政改革の推進は不可欠であります。先般、第5次行財政改革大綱を定めました。予てより長期財政推計並びに飯山市第5次総合計画前期基本計画に基づき事業の推進を図っているところですが、大綱にあります「効率的な行政システムの構築」、「長期的視点に立った持続可能な財政改革の推進」、「開かれた行政の推進」の実現に向け、行財政健全化プラン実施計画を進めてまいります。

市民各位、議員各位のご理解ご協力をお願い申し上げる次第であります。

それでは、平成27年度の予算の特徴と施策概要を申し上げます。

予算総額は、一般会計で144億8千万円、前年度に比べ23億9千万円、14.2%の減であります。

歳入では、市税を前年度より3千6百万円減の22億円、地方交付税を前年度より2億3千万円減の49億4千万円計上し、不足分を基金繰入金、市債で対応しました。

歳出につきましては、人口対策、移住定住及び住宅施策などに1億3千万円余、前年度比9千万円余の増、城南中学校移転、中学校給食センター移転など飯山らしい教育の推進に12億2千万円余、前年度比10億6千万円余の増と重点的な配分となっています。

以下、平成27年度の重点施策に関わる事業についてご説明申し上げます、市の姿をご理解いただければと思います。

一つ目は、「新幹線を活用した人口定着、若者定住、経済活性化の推進」についてです。

先に申し上げましたとおり、新幹線飯山駅が開業しこれまでと大きく環境が変化いたします。人口の定着及び若者定住については、若者からお年寄りまでこの地域で安心して生活できる条件の整備も大切となります。これからの飯山市を担う世代を中心に構成する若者会議を設置しました。この地域で若者が暮らし続けられる職業別の収入確保モデルの構築や行政として行うべき支援策等について検討を重ねてまいります。この若者会議からのアイデアを取り入れながら、人口定着を推進してまいります。

移住及び定住については、飯山市へ移住する際の住宅建設、中古住宅の購入及びリフォームに対する助成や、新たに親子等で同居するための住宅の新築、増改築に対する支援を引き続き行うとともに、飯山市への移住希望者に対する支援制度等のきめ細やかな相談を行うため移住定住推進員を設置し、事業の推進を図ってまいります。また、市営住宅については、新たに（仮称）上新田C棟、1棟6戸の建設を行い、老朽化した住宅については順次除却し計画的な整備を進めてまい

ります。

地域経済の活性化については、新幹線飯山駅の開業による環境の変化により、新しい切り口・捉え方による新産業の創出も期待されるところであります。

新幹線飯山駅には、長野県の山岳高原を活かした観光地づくりのプランによる、NAGANOモビリティの拠点となるアクティビティセンターの開設を行い、新幹線飯山駅と周辺の観光拠点とを繋ぐ二次交通の整備などハブ機能の充実を図っていくとともに、信越自然郷ならではの価値である「アウトドア」、「食文化」、「リラクゼーション」をお客様に提供するための、情報発信、商品開発、受入環境整備の推進を図ってまいります。また、様々な業種で起業したい方を市内外から広く募集し、起業能力を開発するための人材育成塾を開講し、起業について支援を図ってまいります。農産物の販売推進についても、第2回米食味コンクール及び「食の講演会」等を開催するとともに、みゆきポークの母豚更新補助、加工商品開発・販売対策支援、生産振興プロジェクトを充実させ、地域経済活性化の推進を図ってまいります。

二つ目は、「まちづくり、文化、観光、交流の推進」についてです。

「芸術・文化」、「交流」、「にぎわい」をもたらす複合拠点施設として建設を進めています飯山市文化交流館は、本年度内の建設工事完成、開館式典・開館記念公演の実施を予定しております。開館後は市内外

からの多くの人々が集い、交流する場として芸術文化事業のみならず、産業や観光、福祉、教育、地域振興など様々な活用の場にして参りたいと考えております。

小菅の里及び小菅山の文化的景観については、平成27年1月26日の官報告示により、国の重要文化的景観に選定されました。この重要文化的景観には全国でわずか47件しか選定されておらず、長野県内では千曲市の「姨捨の棚田」（2010年2月に選定）に次いで2件目の選定となります。この素晴らしい貴重な景観を大切にするために保存計画に沿った小菅一帯の調査や整備を着実に進めてまいります。

景観計画・まちづくりデザイン計画に基づいた公共空間環境整備と合わせて、まち並修景整備への支援を引き続き実施し、自然との共生、景観、文化を活かした格調高いまちづくりの推進を図ってまいります。

観光・交流の推進では、新幹線飯山駅が開業し、全国から飯山市への時間距離が縮まったことで、全国的なイベントを誘致実施して参ります。27年度は8都市が加盟する寺院群都市会議による「寺町サミット」や全国の小京都はじめ京都ゆかりの市町と本家の京都市との50団体で組織する「全国京都会議」を開催し、また、28年度には飯山市文化交流館を会場に「全国林業後継者大会」を開催することも決定いたしました。新幹線飯山駅に開設した飯山駅観光交流センターからの情報発信等を充実させるとともに、信越9市町村広域観光連携会議による信越自然郷観光案内所とも連携を図り、交流人口の拡大に向け

て、おもてなし気運の醸成や受け入れ態勢の整備などの推進を図ってまいります。

三つ目は、「子育て、教育、健康、福祉の推進」についてです。

次世代育成支援については、第三子以降の保育料無料化、中学生までの医療費の負担軽減を実施し、子育て支援センター、学童クラブ、出産から1歳頃までの子育てスタート期に自信を持って子育てできるように親・家族への支援プログラムを引き続き実施し、新規に出産退院後3か月間の家事や育児に対する援助の充実を図ってまいります。

また、新たに市立保育園での入所年齢を満1歳からに引き下げ、延長保育時間を19時まで延長し、あわせて土曜日の1日保育を市内4つの保育園で、日曜・祝日等の休日保育を市内2つの保育園で実施するとともに、保育料の階層区分を細分化し、保護者の負担軽減を図ってまいります。

教育については、27年度より総合教育会議を設置し教育委員会と連携して進めてまいります。新たに、モデル校を設定して児童が使うタブレット端末等の整備を行いICT教育の推進をしてまいります。小中学校に引き続き英語指導助手を全体で4名配置するとともに、中学校では中国の深セン外国語学校とオーストラリアのバサーストハイキャンパス校からの生徒が来飯し、飯山市からはバサーストハイキャンパス校へ生徒が訪問し、国際感覚の醸成に取り組んでまいります。

また、城南中学校と中学校給食センターの移転については平成28年2学期からの開設に向けて、現飯山高校南キャンパスの校舎・用地の取得と施設整備について実施してまいります。

福祉施策については、生活困窮者の相談窓口を長野県と共同で飯山市社会福祉協議会事務室内に設け、また権利擁護に関わる専門的な知識の必要となる相談、法人後見などの業務を、北信6市町村で選定する事業所等に委託するなど福祉の充実を図ってまいります。

四つ目は、「防災、環境、行財政改革」についてです。

去年は、4月に桑名川・藤沢間での国道の崩落や、12月上旬からの降雪により平成18年豪雪のような大雪、また、県内に目を向けますと、南木曾町での台風8号による豪雨災害、御嶽山噴火災害、長野県神城断層地震など各地で多くの災害が発生したことは記憶に新しいところです。

屋根雪の克雪化や災害救助員の派遣など冬の暮らしに対する支援や、万が一の災害に備えての備蓄物資を引き続き実施し、新たに緊急時や災害時に援助を要する要援護者に対して迅速に行動するための情報を台帳管理するシステムの導入を図り、いつまでも安心して暮らせる地域づくりを進めてまいります。

生活環境については、資源物のリサイクルを推進するため、リサイクルびんパッカー車の更新を行い環境保全の推進を図ってまいります。

また、戸狩終末処理場の長寿命化改修と農業集落排水の常盤第一及び木島南部処理区について、公共下水道への編入に係る事業を行い、維持管理の効率化等を図り生活環境の整備を実施してまいります。

ふるさと寄付金事業については、「悠久のふるさと飯山応援金」への飯山市の美味しいお米をはじめとする様々な特典などにより現在全国から多くの申し出があり、平成26年度においては5億5千万円余の寄付金を見込んでいるところです。新年度においても引き続き事業の推進を図ってまいります。

組織については、平成27年4月から新たな教育委員会制度が始まり、飯山市文化交流館が平成27年度中に開館することから、教育委員会事務局を教育部と文化振興部の2部体制とし、人権政策課を教育部に移管します。また、新幹線駅周辺整備課を廃止し、いいやま住んでみません課については移住定住推進課に改称するなど、事務事業の見直しなどに伴う組織改正を行い、新たに事務を進めてまいります。

以上、施策の概要について申し上げます。

最後になりますが、3月14日、新幹線飯山駅がいよいよ開業いたします。

昨年は市制施行から60年を迎えたわけではありますが、今年は飯山

市の新たな歴史を刻む年となり、次なる70年、100年への第一歩を踏み出す門出の記念すべき年となります。

新幹線飯山駅開業という大きな機会を活かし、新しい時代の幕開けの年とするべく、更なる市政発展に向けて全力で取り組んでまいり所存でありますので、市民各層の皆様の一層のご協力をお願いするとともに議員各位のご支援ご協力を心よりお願い申し上げ、所信表明と致します。

平成 27 年 2 月

飯 山 市 長            足 立 正 則